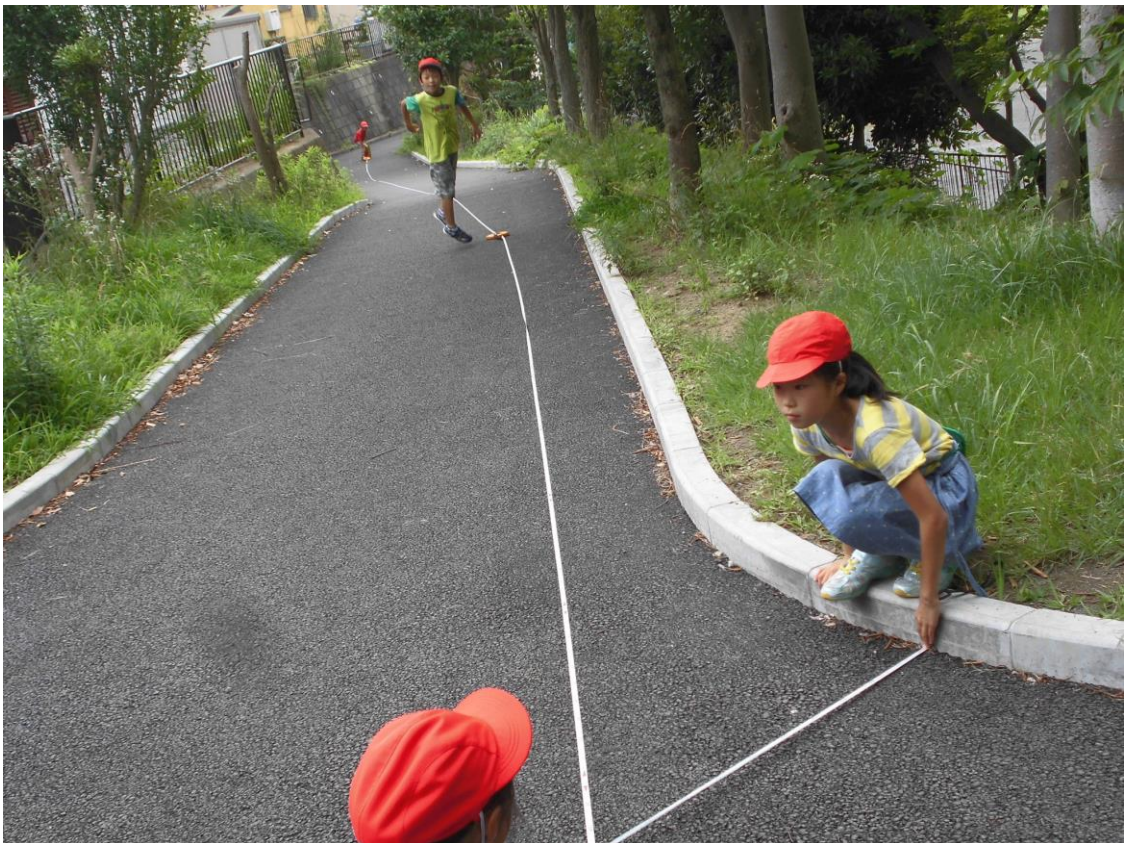


① 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立黒須田小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
4時間	かやの木公園	かやの木を守り神としている「かやの木公園」の秘密を様々な視点で全員で調べた。さらに、この公園の魅力を伝えるために、いろいろな遊びを考えて、実践してみた。	次頁を参照 （写真①）	何について調べたのかを明らかにして活動を行ったので、自主的に行うことができた。クラス全員で取り組むことで、一体感が生まれた。
4時間	教室 ホール	学校全体の総合的な学習の時間の発表の場である「チャレンジ学習祭」で、自分たちが調べたことを他学年や地域の方々に発表した。プレゼンテーション、クイズ、マップの説明、創作物語という4種類をローテーションしながら、たくさんの方々と交流した。オブジェとして、かやの木の実物大の絵（18メートル）も作成して展示した。	次頁を参照 （写真②）	自分が発表するブースを固定するのではなく、4種類をローテーションすることで、臨機応変な対応が求められる、自分の経験をもとに、伝えたい内容を毎回レベルアップさせて話すことができた。実物大の絵も大好評で、子どもたちは自信を深めていた。
4時間	体育館	学習のまとめとして、ミニイベントを開催し、他の学年の友だちに、かやの木公園の魅力を伝えた。公園の立体模型、釣り形式のクイズ、巨大双六を作成し、楽しみながら自分たちの思いを伝えられるようにした。	次頁を参照 （写真③）	最後のまとめとして、友だちに自分たちから関わりながら話をする姿が印象的だった。校歌に出てくるかやの木にいろいろな秘密や願いが込められていることを伝えられた。

写真①



写真②



写真③



③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

校歌に出てくる風景をたずねて、そこで感じたことを表現するという流れを大切にしながらも、それが子ども達の実感として表出するように、めあてをもって何度も訪れたり、さらに深められるような視点を段階を追って提示するようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

学校から公園まで距離が離れていることから、担任一人だけで引率するのは不可能である。そのため、毎回保護者に引率ボランティアを募集して、日程を調整するのが大変だった。

(3) 児童の反応

教師から押し付けられるのではなく、自分たちで題材を決めて、自分たちが調べたいことを追求していったので、自主的な姿勢が最後まで見られた。かやの木というシンボリック的存在に関わることで、想像以上にいろいろなことを発見し、愛着がどんどん湧いていった。発表も、単なる一方向ではなく、相手と関わりながら伝えていく形式だったので、自分に自信をもつことができた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

これまでは、どちらかというと、もう少し教師が計画した流れに子どもをのせていく感じだったが、今回は子どもの思考の流れや反応にしっかり寄り添うことができた。プログラムが根底にあるという安心感が、教師の余裕につながった。回りの教師も協力的だった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

3年生という発達段階もあるが、もっと地域の人や公共の施設の人に関わることができるとさらに「景観」を未来につなぐという意識を高めることができたように感じられる。自分たちがやりたいことを中心に活動していくが、それを客観的に見つめるタイミングを教師がはかり、効果的な場を与えていくとさらによくなると思われる。